

<b>講義名</b>	対)キャリア社会学			
<b>担当教員</b>	桑原 桃音			
<b>開講期・曜日・時限</b>	前期 金曜日 4時限	<b>授業形態</b>	講義	
<b>履修開始年次</b>	2年生	<b>単位数</b>	2	<b>備考</b>

<b>主題と概要</b>
<p>本講義では、まず、働き方の変化、多様な働き方について概観する。</p> <p>つぎに、働くことをめぐる個人と社会のかかわり・構造はどのようなものかを社会学の視点で読み解く。</p> <p>さらに、ライフコースの概念から職業キャリア以外のキャリアとは何かを理解したのち、就職活動、就職後の生活、引退後の生活をふまえながら、キャリアデザインについて学んだうえで、キャリアのなかの大学教育の位置づけについて理解する。</p> <p>さいごに、働くことにかかわる変化とその課題について理解しながら、多様な労働者の働きやすさのために、あるいは多様な生活者の生きやすさのために求められる社会のあり方とは何かを検討し、考察する。</p>

<b>到達目標</b>
<p>(1)「働くこと」をめぐる個人と社会のかかわり、およびその変化と課題について社会学の視点を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>(2)人びとのキャリア意識について知り、将来の自分のライフコースを想定し、キャリアデザインについて理解したうえで大学生活の過ごし方を考え、計画することができる。</p> <p>(3)性別、国籍、障害や病気の有無、家族ケアラーであるかどうかによって、キャリア形成のうえで抱えやすい問題や、置かれている現状について知る。</p> <p>(4)上記の知識と能力を用いて、どのような境遇におかれても誰もがワーク・ライフ・バランスを保持しながら働ける社会の意義を理解し、現代日本社会におけるキャリアにかかわる問題を検討し、働きやすさと生きやすさのために何が必要かを考察し、提案をすることができる。</p>

<b>提出課題</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回授業を受けた後、課題を提出してもらう。</li> <li>・授業時に課題、もしくはRespon等を課す。毎回800～1500字以上の課題を課すのでしっかりと記述すること。</li> <li>・Responは授業内で情報共有する上で個人情報が必要しない内容にとどめること。</li> <li>・グループディスカッションを行うこともあるが、感染拡大の状況を見て、Responを使った双方向ディスカッションなどを課す。たとえば、他の受講生のRespon内容を共有し、それらの内容について自分の意見を述べて議論につなげるなど。</li> <li>・不定期に特別課題、小テストを課す。</li> <li>・授業中半で、中間レポートを課す（授業の進捗や受講生の様子を見て中間テストに切り替える場合もある）。中間レポートの未提出によって点数が下がり、単位が認定されない場合があるので注意すること（1500字～2000字を予定）。</li> <li>・最終レポートの内容については講義時に詳細を説明する。ポータルの説明内容だけでは書けないので注意すること（3000～4000字を予定）。また、最終レポートを提出しない場合は、授業を「放棄」したとみなし、単位が認定されない。教員からの指示がない限り、締め切り以降の提出はいつさい認められないので注意すること。</li> </ul>

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>
<p>毎回の授業課題の講評、質問については、次回もしくは次々回の授業時に学生へ伝える。授業課題の講評内容を参考として最終レポートに活かしてもらおう。</p>

<b>評価の基準</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点60%（講義内の課題、不定期に実施する小テスト60%）</li> <li>・レポート40%（中間レポートor中間テスト10%、最終レポート30%）</li> </ul> <p>20分以上の遅刻は欠席扱い。遅刻し、私語、指示のないスマートフォン等の電子機器の利用はいずれも欠席扱い。欠席が5回以上になったら単位不認定とする。尚書に、毎回の課題の未提出が5回以上になった場合も単位不認定となる。次の行為は判別した時点で単位不認定。課題やレポート内容にインターネットからの盗作・剽窃があった場合。他学生の課題、レスポンス、レポートをコピーして提出した場合（この場合はコピーしたもののさせたものどちらも不認定）。、ともに部分的な盗作、剽窃、他学生の課題内容のコピー&amp;ペーストでも単位不認定。</p>

<b>履修にあたっての注意・助言他</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の課題の分量が多いので頑張って取り組むこと。</li> <li>・課題の提出、Responの入力を積極的に行うことが評価につながる。課題の未提出が評価にひびくので注意すること。</li> <li>・文字数が少ない、授業内容をまったく理解できていない、あきらかに指示した授業資料や動画を視聴していない、いい加減な課題は0点</li> <li>・何らかの理由で提出ができない場合は、借ひょう性書類を用意して必ず締め切り前に教員に連絡をすること。連絡がない場合は受け取らない。</li> <li>・教室内で他の学生が学習する機会、権利を侵害する行為（私語・携帯電話やスマホの使用・授業途中の入退出など）をする者はその日は欠席扱いとし、退出を指示することがある。</li> <li>・各課題、各レポートで盗作・剽窃したものは、それまでの課題点がどれだけよくても、発見した時点で単位不認定とする。</li> </ul>

<b>教科書</b>
・使用しない。

<b>プリント資料及び参考文献</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義時に資料とレジュメを配布する、もしくはRyuka Portalを介して配布する。</li> <li>・参考文献は適宜指示する。インターネット上のサイトなども利用する。</li> </ul>

<b>授業計画</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. キャリアデザイン：自分にあった職業とは何か</li> <li>3. 働くことのしくみ(1)雇用システムと賃金格差</li> <li>4. 働くことのしくみ(2)職場の人間関係と法</li> <li>5. 働くってどういうこと？ 官公庁、組織</li> <li>6. 就活の現状と若者のキャリア意識</li> <li>7. 働くこととダイバーシティ</li> <li>8. 中間レポート(もしくは中間テスト)、前半のフィードバック</li> <li>9. ダイバーシティ求められる多様性(1) 障害者雇用問題</li> <li>10. ダイバーシティ求められる多様性(2) キャリアとジェンダー、ワーク・ライフ・バランス</li> <li>11. ダイバーシティ求められる多様性(3) キャリアとLGBT+</li> <li>12. 最終レポートの説明</li> <li>13. ダイバーシティ求められる多様性(4) グローバル化と「働くこと」</li> <li>14. 働き方の進化、多様なキャリア</li> <li>15. まとめ。後半のフィードバック</li> </ol> <p>感染者、または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止される学生への対応については「備考欄」を確認</p>

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>								
<table border="1"> <tr> <td>ア：PBL（課題解決型学習）</td> <td>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</td> </tr> <tr> <td>ウ：ディスカッション、ディベート</td> <td>エ：グループワーク</td> </tr> <tr> <td>オ：プレゼンテーション</td> <td>カ：実習、フィールドワーク</td> </tr> <tr> <td>キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）</td> <td></td> </tr> </table>	ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク	オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	
ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）							
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク							
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク							
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）								

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>
<p>予習：指定された参考文献、雑誌、新聞記事などの資料に目を通す（各約30分）。</p> <p>2) 本授業の参考文献として指定された資料の配布があった場合は授業までに目を通す。毎回ではないが、授業内で指定された資料を収集したり、その資料について要約したりして予習と課す場合もある（資料はweb上で手に入れられるものにする）。</p> <p>復習：授業時に配布した資料、授業時講義に作ったノートを見直すこと。さらに、授業で理解した知識を踏まえて、その内容について考察したことを文庫化したノートに200字程度書くこと（各30～1時間程度）。不定期であるが宿題が課されたら、その作業をすること（30分～1時間程度）。</p> <p>中間レポート、最終レポートはともに作成のための資料収集、レポート作成作業に5時間以上は要するので、そのつもりでとりかかると。</p>

<b>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</b>
<p>この科目は、産業社会、労働社会、「働くこと」を軸として、社会的に現実社会のさまざまなテーマに取り組みながら、社会構造、社会制度、「働くこと」、ライフプランにかかわる知識と、その社会的な意義や役割を理解することを目標としている。</p> <p>さらに、多様な人々が共にキャリアを通して自己実現していき、ワーク・ライフ・バランスの実現・継続ができる社会を実現する意義を理解し、さまざまな境遇に置かれた人々の問題状況を把握し、問題改善するために何が必要かを考察し、提案できる能力を培うことができ、自分自身がよりよい社会実現のために、どのように貢献することができるかを考察することができる。</p>

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>
<p>提出された課題やResponの内容について授業内で講評や解説を行う。</p> <p>Responを用いて授業内で意見を提示してもらい、それらについては次回以降にコメントや解説をする。</p> <p>受講生の知見や考えを深めるために動画やインターネットを用いる。</p> <p>Teamsを用いて課題、連絡の提示、学生間のディスカッションをすることがある。</p>

<b>実務経験の有無及び活用</b>
<b>備考</b>
<p>感染者、または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止される学生への対応について。</p> <p>1) 欠席しなければならない授業の実施日以降の2週間以内に、復帰後出席した授業時が、もしくは指定した問合せ先（桑原）にメールすること。</p> <p>2) その際に、対応方法、提出が必要な課題や書類等を教員から指示します。</p>